



教員に授業でのタブレット端末の利用方法を説明する高橋純・准教授(中央)

＝富山市五福の富山大付属小で

情報端末活用で授業

富山大付属小

教員対象 デモンストラレーション

タブレット端末など最新のデジタル教材を利用した授業が、県内の小学校では初めて富山市五福の富山大付属小(根岸秀行校長)で

た。今学期から本格的にスタートすることになり、教員を対象にした授業のデモンストラレーションが28日行われた。

文部科学省が全国の学校で推進する情報通信技術を活用した授業づくりの一環で、同小では、富山大の高橋純准教授(情報教育)らが東京の教育情報システム開発メーカーなどと共同で授業モデルの開発を進めてきた。

同小は今学期から専用の教育支援ソフトが入ったタブレット端末46台を導入。従来からの備品を合わせ計66台を、電子黒板などに共に3～6年生の児童約320人の授業に活用していく。

この日はメーカーの開発担当者も来校し、デジカメの機能など基本的な使い方から、立方体の体積を求める計算方法、顔の認識ソフトなどの利用方法を説明。参加した約15人の教員は実際に端末を操作して、それぞれ授業での活用の仕方を検討した。

家庭科を担当する森永郁江教諭は「調理実習に、カメラ機能を利用するなど使いこなせば時間短縮になると思うので、これから授業での活用方法を考えた」と話していた。高橋教授は「いろいろな考えに触れやすくなることで、思考が活性化し認識の深まりも期待できる。いろいろな課題を克服して今後に生かしたい」と期待している。【青山郁子】